

南アフリカ 米国のオレンジ関税免除に歓喜するもマンダリン除外に落胆

[FreshFruitPortal 2025年11月21日](#)

南部アフリカ柑橘類生産者協会(CGA)は声明で、オレンジを含む米国の新たな関税免除を歓迎した。

南アフリカは前シーズンに430万箱(15kg/箱)のオレンジを米国へ輸出した。2025年の出荷は終了しているものの、同協会はこの新しい関税免除は2026年4月からの次のシーズンにとって朗報だとしている。

同国の米国向け柑橘類輸出が2017年以来ほぼ倍増している中、関税免除により米国市場で南アフリカ産オレンジが再び競争力を持つこととなり、輸出の増加と国内雇用創出の機会を提供する。

2025年8月に発効した米国の30%の関税は、南アフリカのシーズン終盤であったため影響が限定的であった。生産者らは迅速に出荷を前倒しすることで期限前に輸出を増加させ、関税を回避することができた。

関税免除の市場全体への恩恵

CGAのボイツオコ・ンツアベレCEOは、「柑橘類の供給に関し、南アフリカは長年にわたり米国のパートナーである。米国の夏季に自国の生産者がシーズン外である時、我々は高品質な柑橘類を供給する。これにより手頃な価格の輸入果実へのアクセスと安定性が確保され、消費者は柑橘類の購入を継続する」と述べた。

CGAの会長であり、西ケープ州シトラスダール地域の柑橘類生産者であるヘリット・ファン・デル・マルヴェ氏は、米国の柑橘類産業にとって供給の安定性は贅沢なことではなく、変動に対する重要なリスク回避策であり、世界貿易が日々米国の消費者に利益をもたらす一例であると説明し、「柑橘類は健康的な生鮮食品として、米国人の健康維持に寄与するという特別な価値を持つ」と語った。

同氏はまた、何ヵ月にもわたり地域の将来に懸念を抱いてきた柑橘類業界の圧迫感を今回の関税免除の発表は軽減するものであると指摘し、「農場では大きな笑顔が見られるであろう」と述べた。

忘れられた品目、マンダリン

今回の関税免除は南アフリカ産オレンジに恩恵をもたらすが、マンダリンには適用されない。ンツアベレ氏は、マンダリンは米国で非常に人気があるため、これは残念なことであるとして、「マンダリン及び他の柑橘類はオレンジと同様の市場動態と供給網の脆弱性を有しているため、米国は現在の免除をこれらにも拡大すべきである」と述べた。

同氏は、マンダリンに関税を課すことは価格高騰、供給不足、インフレ圧力を招く危険があると警告し、「現在進行中の南アフリカと米国の貿易交渉において、全ての南アフリカ産柑橘類が持つ米国の消費者にとっての大きな価値が考慮されることを期待する」と結論づけた。